

「かくい地球と まあるい宇宙」

さく・え チバケイ



<イラスト原画提供>

合同会社いくせい舎 木の葉クラブ(児童発達支援・放課後デイサービス)
社会福祉法人まりも会 小金井市障害者福祉センター

僕たちのいる まあるい地球

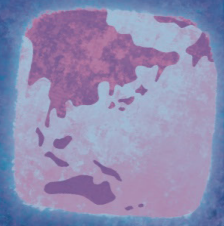
その地球とは ちがう しかくい地球では
いつも 争うごとが起きていました。



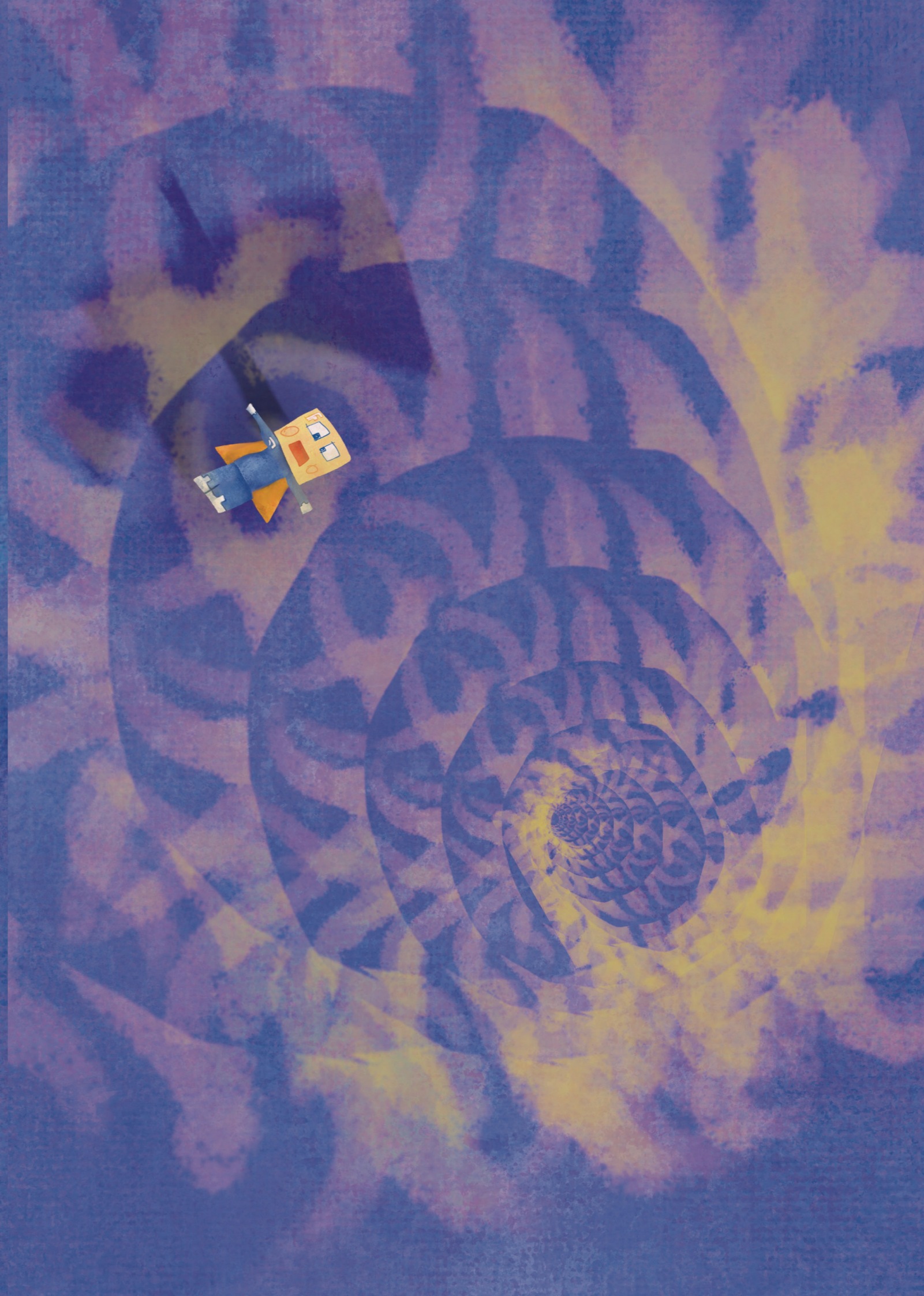
食べ物や 住む場所

大切なものや 大切なひとを
奪い合った結果

住める場所がなくなった しかくい地球人は



新しく住む星を求めて
宇宙の旅に 出ることになりました。



まず初めに
手がたくさんある宇宙人のいる星に
たどり着きました。

「なんで手がいっぱいあるの？」
しかくい地球人は たずねます。

「生まれた時からあるから分からないよ」
「手がいっぱいあるなんて変だよ」
「そうかな？」
「だって手は2本って決まっているじゃないか！」

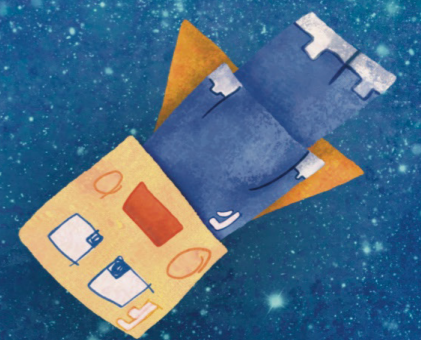
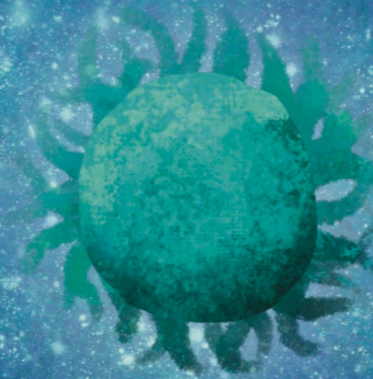


「でも 手がたくさんあると便利だよ！たくさんの物が一度にもてるし」

「それでも変だよ」

「君とは分かり合えないな」

しかくい地球人は
星を追い出されてしまいました。

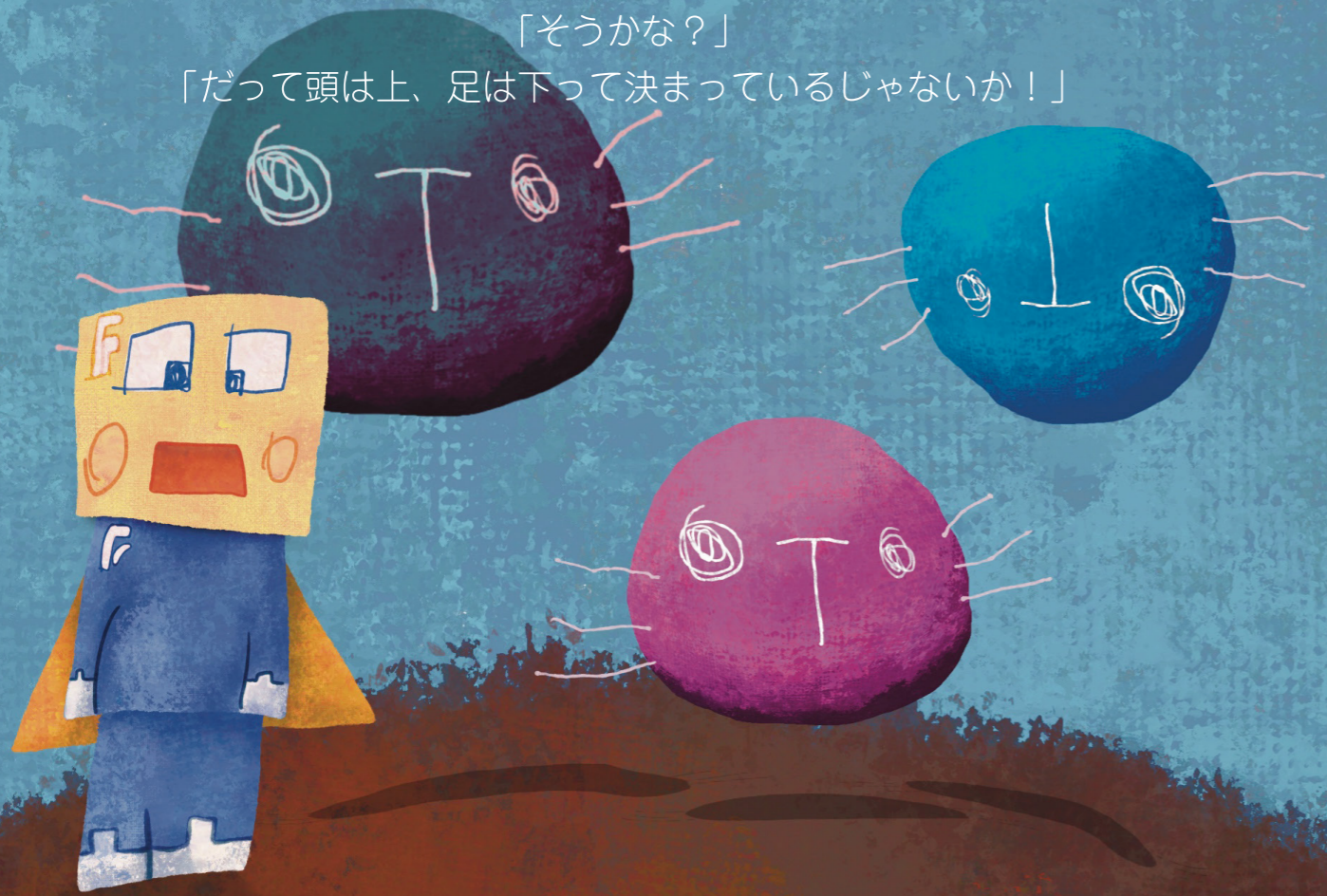


次に
上も下もない宇宙人のいる星に
たどり着きました。

「どっちが上で どっちが下なの？」
しかくい地球人は たずねます。

「生まれた時からこうだから分からないよ」
「上も下もないなんて変だよ」
「そうかな？」

「だって頭は上、足は下って決まっているじゃないか！」

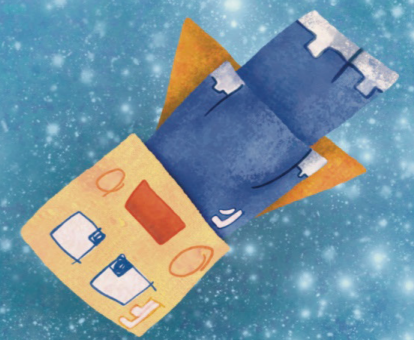


「でも 上も下もないと便利だよ！物を落としたりすることがないし」

「そんなの変だよ」

「君とは分かり合えないな」

しかくい地球人は
また星を追い出されてしまいました。

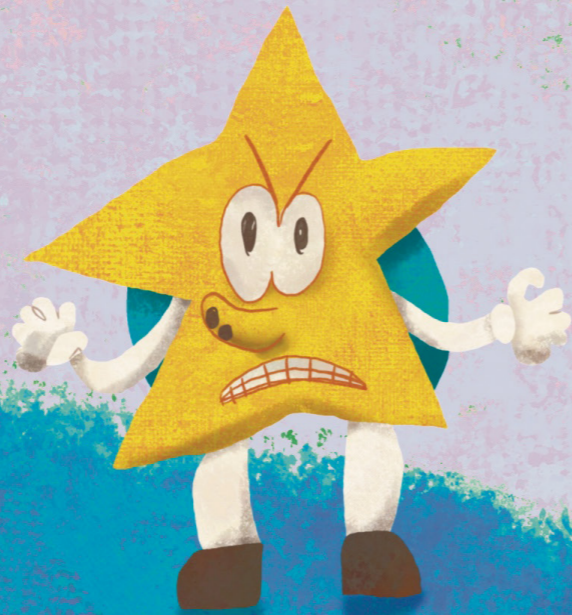


次に
星の形をした宇宙人のいる星に
たどり着きました。

「なんで星の形をしているの？」
しかくい地球人は たずねます。

「生まれた時からこうだから分からないよ」
「頭がそんな形をしてるなんて変だよ」
「そうかな？」

「だって頭は しかく って決まっているじゃないか！」



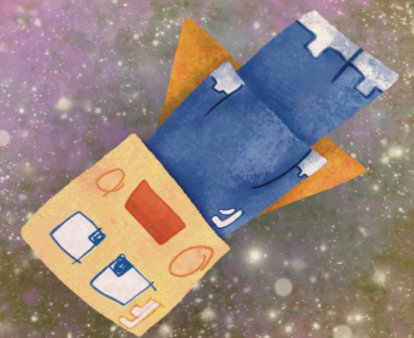
「でも 星の形をしていると便利だよ！夜でも自分の光で明るいし」

「それでも変だよ」



「君とは分かり合えないな」

しかくい地球人は
また星を追い出されてしまいました。



次に
自分そっくりな宇宙人のいる星に
たどり着きました。

「なんでボクと同じ見た目をしているの？」
しかくい地球人は たずねます。

「生まれた時からこうだから分からないよ」
「顔も声も 背格好もボクと同じなんて変だよ」
「そうかな？」

「だってこの宇宙でボクはボクしかいないって決まっているじゃないか！」



「でも ボクがふたりいると便利だよ！ボクの代わりにボクになることができるし」

「そんなの変だよ」

「ボクとは分かり合えないな」

しかくい地球人は
また星を追い出されてしまいました。



そのあとも
しかくい地球人は
色々な星を旅しました。

色のない星、寝ることのない星、こどもがいない星……

けれども どの星も
変な宇宙人のいる星ばかり。

自分に合う星は
ちっとも見つかりませんでした。



そうして
ふわり ふわりと宇宙の中。

しかくい地球人は

「あの星も変だ」

「この星も変だ」

「みんな変だよ……」

そういいながら
自分にぴったりの星を求めて

今もひとり、
宇宙をただよっている。





この印刷物は、公益財団法人和証券福祉財団の助成金によるものです。